

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成21年11月5日(2009.11.5)

【公表番号】特表2002-500198(P2002-500198A)

【公表日】平成14年1月8日(2002.1.8)

【出願番号】特願2000-527273(P2000-527273)

【国際特許分類】

A 6 1 K 38/00 (2006.01)

A 6 1 K 39/35 (2006.01)

A 6 1 P 37/00 (2006.01)

A 6 1 P 37/08 (2006.01)

C 0 7 K 14/415 (2006.01)

C 0 7 K 14/435 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K 37/02

A 6 1 K 39/35

A 6 1 P 37/00

A 6 1 P 37/08

C 0 7 K 14/415

C 0 7 K 14/435 Z N A

【誤訳訂正書】

【提出日】平成21年9月8日(2009.9.8)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】特許請求の範囲

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 患者をポリペプチドアレルギーに対して脱感作するための薬剤であって、前記アレルギーから誘導された 5 から 50 アミノ酸長のペプチドを含み、患者が有している MHC クラス II 分子に対する拘束がペプチドについて示され得、ペプチドが前記 MHC クラス II 分子を持つ患者において遅発型反応を誘発でき、前記ポリペプチドアレルギーが、Der p I、Der p II、Der f I 又は Der F II のいずれか 1 つであり、アレルギーが以下のもの：草、木及び雑草（ブタクサを含む）の花粉；真菌及び黴；ラッテクス、食品、咬む昆虫、ユスリカ類（咬まない蚊）；クモ及びダニ、イエバエ、ショウジョウバエ、ヒツジホホアカクロバエ、ラセンウジバエ、穀物ゾウムシ、カイコ、ミツバチ、咬まない蚊幼虫、ハチガ幼虫、ゴミムシダマシの幼虫、ゴキブリ、チャイロコメノゴミムシダマシ甲虫幼虫、イヌ、ウマ、ウシ、ブタ、ヒツジ、ウサギ、ラット、モルモット、マウス及びアレチネズミ等のネコ以外の哺乳動物のいずれかに存在する、薬剤。

【請求項 2】 ペプチドが前記アレルギーから誘導された複数のペプチドを含有する組成物中に含まれる請求項 1 に記載の薬剤。

【請求項 3】 前記アレルギーから誘導される複数のペプチドが、クラス II DR 分子 DR 2、DR 3、DR 4 及び DR 7 に対する拘束が示され得るペプチドを含み、但しそれらのペプチドはアレルギーから誘導され得る、請求項 2 に記載の薬剤。

【請求項 4】 患者が MHC クラス DR 分子 DR 2、DR 3、DR 4 又は DR 7 のいずれか 1 つを有する、請求項 1 から 3 のいずれか一項に記載の薬剤。

【請求項 5】 患者が MHC クラス II 分子 DR 4 を有する、請求項 1 から 4 のい

れが一項に記載の薬剤。

【請求項 6】 ポリペプチドアレルゲンから誘導される複数のペプチドを含んでなる組成物であって、各ペプチドは 5 から 50 アミノ酸長であり、組成物中のペプチドの少なくとも 1 つに対して MHC クラス II 分子に対する拘束が示され得、組成物が与えられた MHC クラス分子を持つ個体において遅発型反応を誘発でき、前記ポリペプチドアレルゲンが、Der p I、Der p II、Der f I 又は Der F II のいずれか 1 つであり、アレルゲンが以下のもの：草、木及び雑草（ブタクサを含む）の花粉；真菌及び黴；ラッテクス、食品、咬む昆虫、ユスリカ類（咬まない蚊）；クモ及びダニ、イエバエ、ショウジョウバエ、ヒツジホホアカクロバエ、ラセンウジバエ、穀物ゾウムシ、カイコ、ミツバチ、咬まない蚊幼虫、ハチガ幼虫、ゴミムシダマシの幼虫、ゴキブリ、チャイロコメノゴミムシダマシ甲虫幼虫、イヌ、ウマ、ウシ、ブタ、ヒツジ、ウサギ、ラット、モルモット、マウス及びアレチネズミ等のネコ以外の哺乳動物のいずれかに存在する、組成物。

【請求項 7】 組成物中に少なくとも 1 つのペプチドが存在し、それに対して MHC クラス II DR 分子 DR 2、DR 3、DR 4 及び DR 7 の各々の拘束が示され得、但し当該ペプチドがアレルゲンから誘導され得る、請求項 6 に記載の組成物。

【請求項 8】 医薬で用いるための、請求項 6 又は 7 に記載の組成物。

【請求項 9】 請求項 6 又は 7 に記載の組成物と、製薬的に許容される担体とを含んでなる製薬製剤。

【請求項 10】 前記薬剤が請求項 6 又は 7 に記載の組成物である、請求項 1 に記載の薬剤。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0020

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0020】

「患者が有している MHC クラス II 分子に対する拘束がペプチドについて示され得る」により、我々は、ペプチドが患者が保有する特定の MHC クラス II に結合できることを意味するものとする。これは、特定のペプチドは他の MHC クラス II 分子には結合できないことを意味するのではない。ペプチドは一般に「自己」の MHC 分子の関係においてのみ認識され、よって個体の T 細胞による MHC 結合ペプチドの認識は、一般的にその個体の分子によって発現された MHC 分子に拘束される。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0023

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0023】

「遅発型反応」により、我々は、Allergy and Allergic Diseases (1997) A. B. Kay (編), Blackwell Science, pp1113-1130 に記載された意味を包含させる。遅発型反応は、任意の遅発型反応 (LPR) であってよい。好ましくは、ペプチドは遅発型喘息反応 (LAR) 又は遅発型鼻炎反応、又は遅発型皮膚反応又は遅発型の目の反応であり得る。特定のペプチドが LPR を誘発するか否かは、この分野で良く知られた方法によって決定でき；特に好ましい方法は、Handbook of Experimental Immunology (4) 127 章, Wier DM 編集, Blackwell Scientific Publications, 1986 において、Cromwell O, Durham SR, Shaw R J, Mackay J 及び Kay AB により、Provocation tests and measurements of mediators from mast cells and basophils in asthma and allergic rhinitis. として記載されている。特定の MHC クラス II 分子を持つ全ての個体がアレルゲン又はアレルゲン誘導ペプチドの投与に続いて LPR を経験するわけではないが、これは LPR の誘発が、問題とする

アレルギーに対する以前のアレルギー感作によるからである。